

**【神が教えて下さる人生の勝利の方法】**

(God's absolute rule for victory of our life like a desert.)

説教者: 鄭南哲牧師

-箇所:出エジプト記17章 8-16節/ -暗唱聖句:伝道者の書4章12節

(Rev.Jung nam-chul)

**「ひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ燃(よ)りの糸は簡単には切れない。」**

新年明けましておめでとうございます。！新しい新年2021年が始まっています！昨年には、コロナという目に見えないウイルスと必死な戦いが一年中ありました。それに伴い、恐れと不安、寂しさとの戦いも、経済的な戦いもあった方々もいたかも知れません。また今年中にもしばらくコロナウイルスとの戦いが続き、自分との闘い、仕事の戦い、経済的な戦い、病気との戦い、人との色々な葛藤や戦いなど新たな色々な戦いがあらわれるかも知れませんが、全能なる神の御力がみなさんの上に覆われて、今年にも様々な戦いの中にあっても大きな勝利を収める一年となりますように切にお祈り申し上げます！みなさんはいかがでしょうか。

今日の聖書の本文はアマレクとの戦いについて扱っています。出エジプト後、イスラエルの民たちの荒野の生活を一言で言うと、続ける試練の連続だと言えます。一つの試練が乗り越えると、また違った試練が彼らの行進(こうしん)にさまたげてやってきました。食べ物が無くなったり、マラで飲む水がなくてつぶやいていたり、イスラエルの民はまた、シンの荒野で水がなくなると、ふたたび、神様につぶやきます。何日か前、マラでいがい水を、あまい水に変えてくださった神様の奇跡はすっかり、忘れてしまいました。荒野の試練の連続の中で、**イスラエル人の荒野の生活はうらみとつぶやきの歴史だったとも言えます。われらの中にも荒野でのイスラエルの民たちのように、自分の許された人生の歩みの感謝よりもつぶやきの連続の生活を送っているのではありませんか。しかし、荒野でのあらゆる苦難には神様の御心が秘められています。何よりも大切なのは荒野のようなこの世での苦難を通して、神の人たちが人間が建てた中心地であったあのエジプトで人が作り上げられた階級、権力、お金が神かのような人本主義の生き方、価値観の社会から、神本主義、神中心とする生き方に変えられて行くための訓練の場であり、イスラエルの民はさらに成熟される場所が荒野でありました。**

今日の本文である出エジプト17章8-16節では**イスラエル人たちが荒野で違った種類の試練に会われます。**思わぬアマレク族との戦争を迎えての話です。**ところが、イスラエル人が神様や、モーセにつぶやいたという記録がないのは初めてです。いつの間にか、苦難と試練をとおして、ますますイスラエル人の信仰が強められ、成熟していくことが見られます。それをみると、苦難はたしかに、祝福に違いありません。苦難を歓迎し、喜ぶ人はだれもいないと思いますが、我々に益となる事実は否定できないと信じます。**

**今日アマレクとの戦いは単なるイスラエルとイスラエルの敵軍との戦争ではありません。**荒野でのこの出来事が記録されているのはこんにちを生きる我々にも続けている霊的戦い、そして人生のさまざまな戦いにおいて神の民がどうすれば打ち勝つことができるかを教えてくださる本文です。人間にとって食べ物や飲むものが解決されたとはいえ、全部満たされたとは言えません。人生の中で、我々は熾烈(しれつ)な戦いをしているのではありませんか。まず、自分との絶え間ない戦いがあります。自分の欲望と欲心、自我とのことです。あらゆる人生の諸問題と戦い、人々と競争しあい、戦っていきます。さまざまな病気と闘い、内的、霊的あらゆる部門で戦いながら生きています。今日の聖書の話をとおして、荒野のような人生を送っている我々に神様は霊的戦いの勝利への原則を教えてください。今日の御言葉を通してみなさん一人一人がこの熾烈な戦いの中で最終的な勝利者となりますよう、そして、日々の霊的勝利者となるように、自分をさぐる時間となりますように切にお祈り申し上げます。

**1.戦いの対象(who is our enemy?)**

はじめに、この戦いは誰に対象にした戦いでしたか。アマレクとの戦いでした。アマレクはだれですか。創世記36章12節を読めば、このアマレクの正体が分かります。

**「ティムナはエサウの子エリファズのそばめで、エリファズにアマレクを産んだ。これらはエサウの妻アダの子である。」**

(Esau's son Eliphaz also had a concubine named Timna, who bore him Amalek. These were grandsons of Esau's wife Adah.)

つまり、アマレクはエサウの孫になります。アマレクはエサウの血筋(ちすじ)でした。ただ、血筋だけではなく、エサウの生き方と態度をそのまま、継承(けいしょう)されました部族でした。

申命記25章17-18節の御言葉によるとアマレクがどのような生き方をしたかが分かります。

**「覚えていなさい。あなたがたがエジプトから出たとき、その道中で、アマレクがあなたにしたことを。彼らは神を恐れることなく、あなたが疲れて弱っているときに、道であなたに会い、あなたのうしろの落後者をすべて切り倒したのである。」**

(Remember what the Amalekites did to you along the way when you came out of Egypt. When you were weary and worn out, they met you on your Journey and cut off all who were lagging behind; they had no fear of God.)

アマレクが神様を恐れなかったという事実だけを聖書は強調しています。アマレクは消極的には神様を恐れなかったのみならず、積極的には神様に対敵することになります。そして、神様の民を苦しめ、対敵する勢力になりました。そして、聖書はこのアマレク族が**神様の民を脅かすサタン**の霊的勢力のシンバルとして記録されています。

**(#愛する家族、教会の家族がわれらの敵では決してない！ことを忘れないで下さい。サタンに絶えず、みなさんをだまし、みなさんの人生を打ち壊し、愛すべき家族を分裂させ、一つの教会家族を分裂させようとするのでいつもだまされないように。よく霊的な見極め、分別力、識別力をしっかり握って歩む一年となりますように！)**

**2.アマレクが攻撃する対象(A target of Amalekite army' attacking)**

このアマレクが誰を攻撃しましたか。今日の本文にはアマレクがイスラエル人に攻めてきたことだけが記録されていますが、

申命記25章18節をみると、もっと具体的に誰をターゲットにして攻めてくるのかがわかります。

**彼らは神を恐れることなく、あなたが疲れて弱っているときに、道であなたに会い、あなたのうしろの落後者をすべて切り倒したのである**

(When you were weary and worn out, they met you on your Journey and cut off all who were lagging behind; they had no fear of God.)

ar of God.)

だれを攻撃したと記録されていますか。アマレクは正面衝突を企(くわだ)てたのではなく、うしろの落後者たちをみな、切り倒した記されています。彼らはどうしてうしろについて来たのでしょうか。疲れていたからです。そんな彼らがアマレクの攻撃のターゲットになったのです。私はこれが霊的戦いのほかの面を表わしてくださると思います。サタンはだれを攻撃すると思いますか。みなさんはサタンが一番攻撃しやすい対象はだれだと思いますか。群れから距離をおいて隙間ができていところに、攻めてくるのがわかります。ペテロが試みに陥った時もこのような場合でした。

マルコの福音書14章54節をみてみてください。

「ペテロは、遠くからイエスの 後について、大祭司の庭の 中まで入って行った。そして、下役たちといっしょにすわって、火にあたっていた。」(Peter followed him at a distance, right into the courtyard of the high priest. There he sat with the guards and warmed himself at the fire.)

これがペテロの試みに入るドラマの始まりです。だれより先頭に立って、だれより熱心にキリストについていたペテロはいつの間にか、遠くからイエスの後をついているうちに、試みに陥ってしまいました。

我々がイエスキリストの弟子として主に従う時、どんな態度と姿勢をとるかはとっても大切です。

イエス様を信じる信仰をもって主に近づく人、主の御言葉を近くにおく人に、サタンは色々な弱いところに攻撃して来ます。

エペソ人への手紙6章を読んでみると、霊的戦いへの描写(びょうしゃ)に我々の戦いは血肉に対するものではなく、なにとの戦いだと書かれていますか。天にいるもろもろの悪霊との戦いです。

使徒パウロはこの戦いを描写しながら、我々が持つべきことは何だと強調していますか。

「終わりに言います。主にあって、その大能(たいのう)の力によって強められなさい。(エペソ人への手紙6章10節)」

(Finally, be strong in the Lord and in his mighty power.)

いつも自分の力ではなく、主が与えてくださる力によって、聖霊の力によって強められれば、悪霊がわれらの弱さ、すきまにすぐ入り、攻めて来るということです。自分自身が、我々の家庭がサタンの攻撃対象にならないように気をつけましょう。今年中にも疲れ果ててしまって、イエス様の後を遠くからついていかないように気をつけましょう。いつも主の近くにい、主についていてください。

### 3. 攻撃の時(Time is attacked)

それではみなさん!すると、アマレクはいつ攻めて来ましたか。その時を我々は注目しなければなりません。出エジプト17章1-7節の御言葉によると、イスラエルの民がまた水がないとモーセにつぶやいていました。もちろん、神様はイスラエルの民の弱さにもかかわらず岩から水が湧き出るように助けてくださいました。その恵みの直後、アマレクが攻め来ています。

ここで我々は二つの大切な真理を覚えなければなりません。我々が神様の恵みを受けるとき、神様からの祝福を受けるとき、それをねたみ、嫉妬するものがあります。だれでしょうか。サタンです。ですから、我々が恵みを受け、神様の祝福にあずけられる時、同時に試練と試みがやってくることも有りうることです。つまり、サタンの攻撃がやってくることを覚え、我々はいつもこれに対して備えていなければなりません。“立っている者は倒れるか気をつけなさい。”という御言葉を覚えましょう。

そしてもう一つの時を考えられます。シンの荒野で渴いていたイスラエル人たちは岩から湧き出る水を飲んだ後、アマレクが攻めてきたということです。つまり、イスラエル人たちが戦う準備ができたからだと私は思います。もし、水を飲まず、渴いている状態でアマレクに攻撃されたなら、それは戦う前に負けたことになったでしょう。しかし、岩から湧き出る水を飲んで新しい力を得た状態で、アマレクの攻撃を受けます。

愛するみなさん!神様が試みを許される時はだれをも許すわけではありません。いつも大切な原則があります。それは耐えられるほどになったところに神様は許されるということです。この事実を覚えましょう。

コリント人への手紙第一 10章13節は暗唱しておくとき大きな力となってくださる御言葉です。

「あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。」

(No temptation has seized you except what is common to man. And God is faithful; he will not let you be tempted beyond what you can bear. But when you are tempted, he will also provide a way out so that you can stand up under it.)

耐えられない試み、戦いはないことを信じてください。どんなに死ぬような状態であっても耐えられるという事実を信じてください。神様は耐えられる時、試みを許されます。ですから、私たちは勝利することができるという事実を信じる必要があります。みなさんが耐えられないほどの試みは神様は決して与えてくださりません。

今、みなさんが体験している試練と試みを通った後、みなさんはかならず、神様の人としてさらに堅(かた)く立てられ祝福される人生を送ることができることを信じてください。アーメン!

### 4. 戦いの方法(Method of spiritual battle for victory)

今日の聖書本文でイスラエルの民はどうやってアマレクと戦っていますか。本文の9節をみてみましょう。

「モーセはヨシュアに言った。「私たちのために幾人かを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。あす私は神の杖を手を持って、丘の頂に立ちます。」」(Moses said to Joshua, [Choose some of our men and go out to fight the Amalekites. Tomorrow I will stand on top of the hill with the staff of God in my hands])

モーセはヨシュアを選んで、彼によって人々を集め、戦うようにと指示しました。そして、モーセは丘の頂(いただき)にて杖を高くあげると言いました。丘で戦う部隊と山のいただきで杖を持っている部隊に分けたのです。杖を持っている部隊はつまり祈る部隊です。つまり、実

際に戦うチームと祈るチームを分けたのです。みなさんにこの二つの部隊の中、どちらがもっと大切だと思いますか。両方とも等しく大切でしょう！

神様の働きには様々な分野があります。大切でない分野は一つありません。みなさんがみるといつも講壇でメッセージする牧師が一番大切だと思われるかも知れません。しかし、ここに立っているわたくしが神様の御言葉を宣布し、語るることができるのには見えないすみずみで働くたくさんの方々がいるからです。

朝から祈り、水曜日忙しい時間をさいて教会にまで来て自分だけではなく、教会のみなさんとこの民族のために祈っている方々が神の御国の働きのためにどれだけ大切なのかわかりません。礼拝の時、前で奉仕されている方々だけではなく、賛美、奏楽の方々も、毎週教会の受付の奉仕者たち、食事の準備をしてくださる方々、食事後教会の掃除を手伝っている方々、遠く住んでいる方々、自分の力では来れない方々のために送迎(そうげい)の奉仕をしてくださる方々、教会の会計のために仕えてくださる方々など、一人一人がどれだけ尊いのかわかりません。そういうわけで、わたくしが御言葉を伝えることができますのです。

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん!覚えましょう。

神様の働きはその意味で、チームワークです。チームの働きです。大切でないことはなに一つありません。

神様にとっては全部が大切なのです。ところが、その中でも特に今日の聖書の本文で強調する大切な働きは祈りの働きです。

実際に戦うヨシュアとイスラエル人たちよりこの戦いで勝利をおさめる決定的な役割を占めたのはモーセのとりなしのチームであったことを聖書は大切に強調しています。

モーセは山の頂で杖を持って立っていました。手を高くあげること、それは祈りのシンバルであり、象徴です。

手をあげることは祈りの象徴です。旧約でもそうだったし、新約でもそうでした。旧約聖書詩篇28篇2節を読んで見ましょう。

「私の願いの声を聞いてください。私があなたに助けを叫び求めるとき、私の手をあなたの 聖所の奥に向けて上げるとき。」

(Hear my cry for mercy as I call to you for help, as I lift up my hands toward your Most Holy Place.)

新約聖書でもこのような祈りの形、祈りの象徴性は続きます。とりなしの大切さを教えるテモテへの手紙第一2章8節では、

「そういうわけで、私は願うのです。男たちは、怒ったり 言い争ったりせずに、どこでも、きよい手を上げて祈るようにしなさい。」

(I want men everywhere to lift up holy hands in prayer, without anger or disputing.)

男は怒ったり言い争うことなく、何をしようと言われましたか。きよい手を上げて祈るようにしなさい。と言われました。

実際に手を上げるか、上げないかの事実ではなく、祈る自体がもっと大切です。

モーセは手だけあげるのではなく、同時に杖をあげました。なぜ、杖を持ったのでしょうか。その杖は何をしていた杖でしたか。神様の奇跡と力を表わす事に用いられた杖でした。これは単純に祈りの祈りだけを強調するのではなく、祈りの力、祈りのパワーを強調しています。ですから、アマレクとのこの戦いは単純に戦闘部隊(せんとうぶたい)が一生懸命に戦って勝った戦いではなく、祈りの力によって勝った戦いなのです。つまり、祈りの力を強調する勝利なのです。

それもモーセが一人で祈ったことでしょうか。いいえ！モーセが杖を持って祈りながら、疲れて、腕が下りてくるとだれが支えてくれましたか。はい。アロンとフルがそばでそれを支えてくれました。

愛する信仰の家族のみなさん！これは何を意味しますか。祈ることにもともにする必要がある意味です。一人でも祈れます。

しかし、一人で祈ると熱心にしながらも、疲れてしまうことがあります。いつも持続(じぞく)することがむずかしいことをみなさんもよくご存知だと思います。しかし、祈りのグループがあれば力が出ます。困った時、なやみがあるとき、いつもちかくで集まって祈り合う祈りのチームを作ってください。これが一番大切です。我々は祈りたくなるときもあり、疲れ果てる時もあります。そのとき、だれか、一緒に祈りましようと言ってくれ、祈ってあげればもう一度、力づけられすぐ、立ち上がれると信じます。

\* 伝道者の書4章12節「ひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚(よ)りの糸は簡単には切れない。」

(Though one may be overpowered, two can defend themselves. A cord of three strands is not quickly broken.)

\* マタイの福音書18章20節「ふたりか三人がわたしの 名において集るところには、わたしもその中にいるのです。」

(For where two, or three come together in my name, there am I with them.)

それにみなさん! アロンとフルとモーセとの関係はどんな関係でしたか。

はい、家族関係でした。アロンはモーセの兄で、フルはカレブの息子であってモーセのお姉さんミリアムのご主人でした。つまり、家族間のチームワークでした。みなさん！一番よい祈りのチームワークは家族の間でのチームワークです。同時に家族のように祈る合う関係を作ることが大切です。

家庭で、家族が集まって一緒に祈ること、これこそ神様の祝福と勝利をあじわえる近道だと信じます。私はこの世で家族と一緒に祈る姿こそ美しい光景はないと思います。今年、みなさんの家庭で家族がともに祈りあう、その回復があるようにお祈りします。一人で住んでいる方はかならず、祈りのパートナーを作ってください。願わくなら、今年の水曜祈り会、早朝の祈りの時、家族で一緒に出て祈る家庭もありますようにお祈り申し上げます。

<三つ撚(よ)りの糸の祈りの家族(チーム)の選択方法(Let's make a Partner & Team of Prayer for God's Victory!)>

①祈りのパートナーになりましょう。

だれかによって無理やり、強制的に決められるのではなく、自分で探し、決めて下さい。探す時に、大切なのは、自分の為によく祈ってくれる人より、自分ももっと祈ってあげたい人の方に行ってパートナーとなってあげて下さい。そして、なるべく家族やいつも仲良しの人、異性は避けて下さい。

②祈り課題を分かち合う。

お互いに祈り課題を分かち合う時に抽象的ではなく、具体的な祈り課題として分かち合ってください。そして、祈りが答えられたら、必ず伝えて下さい。

**＊ ＊ 「共に(祈りの)手を上げている時は、優勢になり、共に(祈りの)手を降ろしているときは、敗北となる！！」**

**(祈ることは: 余裕のある趣味活動じゃない。人生の勝敗、勝つか、負けるかのカギである！勝利するか、完敗するかのカギとなります！)**

**5. 戦いの結果(the result of spiritual battle) : いつまで祈るべきか、勝利するまで、完全にこたえられる時まで祈る。**

最後にこの戦いの結果はどうなりましたか。当然、とりなしの偉大な力によって彼らは勝利をおさめることができました。

**出エジプト記17章15節-16節**です。

**「モ-セは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、16そして言った。「主の御座の上にある手。主は代々にわたりアマレクと戦われる。」**  
(Moses built an altar and called it The LORD is my Banner. 16 He said, "For hands were lifted up to the throne of the LORD. The LORD will be at war against the Amalekites from generation to generation.")

この戦いで勝利した後、モーセは記念の祭壇を築きました。そしてその祭壇の名前を“アドナイ・ニシ”だと言いました。

“ニシ”とは‘旗’という意味です。ですから‘アドナイ・ニシ’という意味は‘**神様は私の旗**’つまり、‘**勝利を象徴する旗**’です。

これをまとめてみると、“**神様は私の勝利の旗となる**”という意味です。

ヨシュアが実際に戦いに出て、モーセは山の頂から応援を送りましたが、**究極的にこの戦いはだれによる勝利でしたか。**

そうです。**神様による勝利でした。神様が勝利の旗でした。神様による勝利でした。祈ったということは、彼らが神様をみあげ、神様に頼ったということです。そして、神様は彼らを助けてくださいました。まさしく、神様による勝利だったのです。**

**愛するみなさん！ メッセージを終わらせます。今日、荒野であった神様の民とアマレクとの戦いのような戦いはこんにちも続くことを教えて下さっています。“主は代々にわたってアマレクと戦われる！”(The LORD will be at war against the Amalekites from generation to generation)**

**我々の神様は一回だけの勝利ではなく、持続的な神様の励ましと勝利を約束されています。**

もちろん、当時のアマレクはしばらくの間、消えてしまいました。しかし、アマレクの霊を継承した、我らを分かちさせ、分裂させ、倒そうとするサタンの霊的な攻撃、闇の攻撃と誘惑、戦いは今年も、今も私たちにまで脅かして来るでしょう。

しかし、みなさん！今年もそのような闇の攻撃を決して恐れないで下さい。神様が祈りの手を上げて、ご自身に心から頼り、委ね切っている我々のかわりに戦ってくださいます。2021年中にもあらゆる戦いの勝敗は、コロナによるものではありません。全て神様の御手に属するものです。神の前で、我らがどう行かうか、従うか次第となります。謙遜に神様にたより、ひざをまずいて祈る者に与えて下さる神様の大きい勝利が今日から始まる2021年中ずっとみなさんの上に豊かにありますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。

最後に改めて、神様と関係、人との関係の回復を心から望む方々にリック・ウォレン牧師の「**山上の説教に基づく回復の8原則(マタイ5:3-10 GNB)**」を薦めます。もう一度、祈ることを込めてご願い、告白しませんか。

- ①回復の原則1「**私は神ではないということを認めます。悪いことをしてしまう自分をコントロールする力が ないこと、そして自分の人生が手に負えない状態にあることを認めます。**」—「自分が霊的に貧しいということを知っている人は幸いです」
- ②回復の原則2「**神が生きておられること、神にとって私は大切な存在であること、そして神には私を回復させる力があることを心から信じます。**」—「悲しんでいる人は幸いです。その人は慰められるからです」
- ③回復の原則3「**私の人生と意志のすべてを、キリストの配慮と導きにゆだねることを意識的に選択します。**」—「柔和な人は幸いです」
- ④回復の原則4「**正直に自分の心を点検し、自分の犯した過ちを自分と神と信頼できる人に告白します。**」—「心のきよい人は幸いです」
- ⑤回復の原則5「**神が私の人生において変えたいと願っておられるすべてのことに喜んで従い、性格上の歪みを直して下さるように、へりくだって神に求めます。**」—「神の御心に生きることを何よりも願う人は幸いです」
- ⑥回復の原則6「**すべての人間関係を振り返り、自分を傷つけた人々を赦し、また自分が傷つけてしまった人々に償いをします。ただし、その人や他の人々をさらに 傷つけることのない場合に限りです。**」—「あわれみ深い人は幸いです。平和をつくる人は幸いです。」
- ⑦回復の原則7「**日々、神と交わる時間を確保して自分自身を吟味し、聖書を読み、祈ります。それは神ご自身を知り、私の人生に対する神の御心を知って、その御心に生きる力を得るためです。**」
- ⑧回復の原則8「**自分の生き方と言葉を通してこの良い知らせを伝えるために、神が私を用いてくださるよう、自分自身を神に明け渡します。**」—「神の御心を行っているために迫害されている人は幸いです」  
アーメン！